

2019 精神科セミナー報告



日 時：2018年8月20日（火）～21（水）

場 所：主に林道倫精神科神経科病院

参加者：5名（岐阜大21卒、長崎大22卒、愛媛大22卒、愛媛大23卒、北京大25卒）

スタッフ：医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士、事務など

概要

8回目の今回も。中四国訪問での中四国の大学や県連、民医連病院への案内、全国の大学及び民医連への郵送を行い、5名の医学生に参加がありました。大学の内訳は、愛媛大学2名、長崎大学1名、岐阜大学1名、北京大学1名、参加のきっかけは中四国訪問時に会った学生が2名、精神科研修交流集会で会った学生が2名、大学でチラシを見てくれて申し込んでくれた学生が1名でした。

セミナーに取り組むにあたって大切にしていること

- ・体験と話がセットになるように。
- ・何のために医師になるのかを考えてもらえるようなものに
- ・現場の面白さを伝えたい
- ・精神科に触れるのは初めてだと思って、丁寧に対応していく
- ・プログラムの前にオリエンテーションをきちんと行って全体像をつかんでもらってからプログラムに入ってもらおう

スケジュール

【1日目 8月20日（火）】

午前	診察陪席（急性期病棟と外来）と心理検査 病院見学
お昼	医局で先生方と懇談
午後	グループワーク デイケア、重度認知症デイケア、アルコール病棟認知行動療法
夕方	カンファレンス「回復のカギは地域にあり」 医師研修委員会参加
夜	夕食交流会

☆開会式の後、セミナースタート。診察見学と心理検査と講義に入ってもらいました。心理検査では学生に好評の箱庭療法を体験してもらいました。



心理士の講義と箱庭療法体験



診察の前に患者についての説明を受ける

《診察陪席》

ひとえに同じ疾患を持つ患者でも、その症状や背景が異なっていた。それをくみ取って医師は対応していた。
長崎大学4年生(女)

《心理検査・講義》

箱庭療法の体験をした。最初は人形を並べてどんなことが分かるんだろうと思っていたが、無意識に並べた人形や置物自体に意味があったり、並べ方のパターンで性格が分かったりして面白かった。
愛媛大学3年生(女)

☆病院見学をした後、お昼は医局で医師と懇談しながら昼食、午後はデイケアと病棟グループワークに参加してもらいました。その後は、林院長によるカンファレンス「回復のカギは地域にあり」でした。



医局で昼食



グループワークの説明



林院長によるカンファレンス

《グループワーク》

(重度認知症デイケア) 認知症の方が通うデイケアで、50代の若年性認知症の方もいた。一人一人に合った作業とみんな一緒に参加するプログラムなどしていた。
長崎大学4年生(女)

(デイケア) 認健常者との違いは何?と考えさせられた。また、それゆえに一般人からは理解が得にくいのかもかもしれないと感じた。
北京大学1年生(男)

(病棟認知行動療法) 退院が近いグループに参加した。健康や家族に影響が及んでも、止めることができないアルコール依存症の恐ろしさを知ることができた。また失敗しても受けるという林病院の姿勢があり、時間と忍耐が回復には必要なのだと改めて感じた。
岐阜大学5年生(女)

☆夕方は医師研修委員会の症例検討会に参加。積極的に質問もしていました。夜は医師やプログラムに関わった職員と夕食交流会で親睦を深めました。セミナーの中で疑問に思ったことなどを学生は医師・職員に質問していました。



医師研修委員会では症例検討



夕食交流会も盛り上がりました

《カンファレンス》

生活にフォーカスした治療が求められることがわかった。他の科より、生活能力を着にした治療計画が必要だと思った。
愛媛大学4年生（男）

幻聴などの病気の症状にとらわれて治療が行き詰まった時、訪問看護や日常の様子から患者の特異なことやできることに目を向ければ新しい道が開けることを学んだ。企業に病気について病院側から説明し理解してもらうことが患者の社会復帰において大切だと思った。

岐阜大学5年生（女）

《医師研修委員会》（症例検討）

症例報告を通して、様々な人の視点から得られた疑問を共有することで学びが深まるのを感じた。

長崎大学4年生（女）

難しいかなと思う内容もあったが、林先生が適宜解説して下さったので分かりやすかった。

愛媛大学3年生（女）

【2日目 8月21日（水）】

- 午前 講義「精神科医療と林法人の過去現在未来」
フィールドワーク①
患者宅へ訪問
- お昼 フィールドワーク②
就労支援事業所訪問
- 午後 当事者（ピア）との交流会
まとめの発表

☆2日目は、午前中は星地域医療部長による「林法人の過去現在未来」の講義、そして1回目のフィールドワーク。患者さんの家を訪問したり、買い物のサポートをしました。



星部長の講義
「精神科医療と林法人の過去現在未来」



患者宅にも訪問しました

《精神科医療と林法人の過去現在未来》

精神科医療と林病院の歩みを知った。ターニングポイント毎に患者さんの苦悩に気付いた人のアイデアがあり、患者さんと一緒に治療する姿勢が大事だと知った。

愛媛大学4年生（男）

《患者宅訪問》

病気を抱えながらも自分の趣味を楽しんだり、自分のできることを見つけ、広げたりする患者さんの様子を拝見し、病気＝不幸ではないということを強く感じた。患者さんがその人らしく生きるためには、病院で生活するより、地域で生活する方がよいと改めて感じた。

岐阜大学5年生（女）

10代で発症してから今までの人生を話して頂き、衝撃を受けた。患者さんと同行した職員（星さん）は何でも言い合える関係で聞いていて面白かったです。「林病院と星さんと関わって良かった所は何ですか」と聞いたところ、「最後まで寄り添ってくれるところ」と答えて下さり、それだけの関係を築くのは医師だけでは難しいことだと思い、印象に残った。

愛媛大学3年生（女）

☆お昼は就労支援事業所を訪問し、施設の方に食事をしながらお話を伺いました。午後からは当事者（ピア）との交流会に参加しました。



就労支援事業所のお話



ピアとの交流会

《就労支援事業所》

事業所の建物の窓のことや高さのことについての周辺の住民の方とのやり取りのことを聞き、精神障害者への偏見がまだまだあることが分かった。事業所の方々の時給がとても低くて驚いたが、それでも仕事があるということで患者さんの生きがいに繋がっていることが分かった。

愛媛大学3年生（女）

《当事者（ピア）との交流会》

人それぞれ苦悩を持っていて、それを共有できる場場の大切さを感じた。希望があるから生きる気力も出て来るのだと改めて感じた

愛媛大学4年生（男）

皆が共有できる環境があるということは大事で患者さんも求めていることを強く感じた。

北京大学1年生（男）

当事者の生の声を聞き、本当に一生懸命生きてきたのだと、心を打たれ、強い方たちだと心から尊敬の念を抱いた。医師になったら上から見てしまうところがありがちだが、自分よりもいろいろな試練に立ち向かい、生き抜いてきた人だという意識を持って関わっていきたい。

岐阜大学5年生（女）

☆最後は、医学生さんに「今回学んだこと、印象に残ったこと」を職員の前で発表してもらいました。

学生さんからは、「林病院のスタッフは明るく、患者さんにとって居場所になっていると感じた」「患者さんの希望に応える、患者さんに寄り添う医療を行っている」「それを医師や他職種が連携して取り組んでいる」と発表してくれ、少しは林病院の良さを感じてもらえたのかなと思います。



発表の準備



まとめの発表

☆セミナーに参加しての5人の学生のまとめの感想は以下の通りです。

二日間大変充実した実習だった。学校では多職種の方と関わる機会は全くないため、PSWや看護師の立場から医師に求めることや、それぞれの立場で大切にしていることを聞くことができ、本当に良かった。患者さんも温かく受け入れて下さり、本当に良い方ばかりで大変感謝しています。今後も精神科医療について学びを深め、良い医師になれるよう励んでいきます。

岐阜大学5年生(女)

沢山の患者さんと触れ合う機会を頂いて、これまで思い描いていた精神科についての考えを再認識することができた。“人生に寄り添う”精神科の魅力を十分に実感することができた。プログラムに携わって頂いた沢山の皆さまに感謝します。

長崎大学4年生(女)

精神科の人は、自分が思っていたことを口にしてしまうイメージだった。しかし実際はすごく自身無さげで気を遣っていることに気づけた。まだまだ健常者のコミュニティからの偏見が強いので、それを変えていく必要性を知った。

愛媛大学4年生(男)

二日間、本当に楽しく勉強になった。大学の講義だけでは絶対に分らなかったと思う場面ばかりだった。学生のうちにこのような経験ができ本心に良かった。精神科のイメージとして、投薬中心なのかな、閉鎖的なのかな、というものがあつたが、それが打ち壊された・患者さんの生活背景を知り、人生に寄り添うこと、居場所を作ることは精神疾患の治療において必要なものであることが分かった。

愛媛大学3年生(女)

二日間で学んだこと、感じたこと

「薬を飲み続けることがどういうことなのか、飲まないってどういうことなのか」「知らないことを知らないと言える強さ」「精神障害を持つ人々の金銭の状況」「チーム医療の本質」

北京大学1年生(男)

まとめ

今回も県外からの参加者ばかりでしたが、プログラム毎に質問もしてくれるなど積極的な学生が多かったです。今後も、定期的に医学生に精神科と林財団の魅力を伝える機会としていきたいと思います。